

Ⅱ. 第12回地域消費動向調査結果

1. 調査実施概要

(1) 調査対象者

甲府市に住民登録をしている20歳以上の人を対象とし、概ね20歳代から60歳代までの年代別構成比を基に3,500人を無作為に抽出して、郵送での配布・回収方式とした。

(2) 調査実施時期

平成29年7月31日に郵送配布し、同年8月21日回収分までを集計した。

(3) 回収票

1,510票（回収率 43.1%）

(4) 年代別統計情報と回収サンプルの構成比比較にみる調査結果の傾向

回収サンプルが市の年代別人口構成比より上回っている年代としては、50歳代（2.8ポイント高）と60歳代（7.2ポイント高）で、反対に20歳代（5.5ポイント低）、30歳代（0.8ポイント低）、40歳代（3.8ポイント低）の若い世代は下回っている。

この結果、50～60歳代が全回答者の51.8%を占め、甲府市統計情報の同年代の人口割合41.8%を10.0ポイント上回り、市の実態より高齢者の比率が高い回答傾向にあることが判明した。

なお、平成26年に実施した前回調査との比較では、前回も50～60歳代が51.1%を占めるなど、概ね同様の傾向がみられた。

■ 地域消費動向調査回収結果

図表2-1-1

単位：人、%

	市人口 (H29/1)	構成比	今回 (H29年) 調査		前回 (H26年) 調査	
			回答数	構成比	回答数	構成比
20歳代	19,099	16.0	159	10.5	109	11.3
30歳代	21,700	18.2	262	17.4	159	16.4
40歳代	28,538	24.0	305	20.2	205	21.2
50歳代	23,637	19.9	343	22.7	201	20.8
60歳代	26,063	21.9	439	29.1	293	30.3
無回答	-	-	2	0.1	1	0.1
合計	119,037	100.0	1,510	100.0	968	100.0

資料：甲府市統計情報（H29年1月1日現在）

2. 調査結果

(注. 以下すべての項目における年代別、男女別等のグラフについては無回答を除いているため、全体集計結果の構成比率とは数値が相違している)

1. 回答者属性

(1) 年代

前述のように回答者の年齢は、50～60 歳代において過半数を占め、特に60 歳代は 29.1%と高い比率となっている。

(2) 男女別

図表 2-2-1

単位：人、%

「男性」の回答者割合が 42.2%で、「女性」は 57.5%と女性の方が多い。

また、平成 29 年 1 月 1 日現在の甲府市「住民基本台帳」による男女

比は、男性 48.5%、女性 51.5%となっており、これと比較すると今回の調査結果は男性が 3.0 ポイント下回り（反対に女性が上回り）、女性の回答が多少高く反映されているとみられる。

なお、前回調査との比較では男性の方が 2.9 ポイント上がり、その分女性の比率が低下しているため、今回調査は前回より若干ながら男性の意見が多くなっている。

性別	今回（H29 年）調査		前回（H26 年）調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
男性	637	42.2	380	39.3
女性	868	57.5	587	60.6
無回答	5	0.3	1	0.1
合計	1,510	100.0	968	100.0

(3) 家族の人数

2 人家族が 28.5%を占めて最も多く、以下 3 人（24.0%）、4 人（22.3%）、5 人以上（12.8%）、本人のみ（11.6%）の順であった。

これを前回調査結果と比較すると、3 人家族が 4.0 ポイント前回より増加し、このほか 4 人（0.7 ポイント増）、5 人以上

（0.9 ポイント増）も前回より増えている。

一方で、本人のみ（6.1 ポイント減）、2 人（0.2 ポイント減）は低下している。

この結果、今回の調査結果は前回調査と比較すると、3 人以上の家族人数の割合が比較的多い傾向がみられる。

なお、平成 29 年 1 月 1 日現在の甲府市「住民基本台帳」の一世帯当たり人数は 2.1 人で、これと比べても家族人数は多い結果となっている。

図表 2-2-2

単位：人、%

家族構成	今回（H29 年）調査		前回（H26 年）調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
本人のみ	175	11.6	171	17.7
2 人	431	28.5	278	28.7
3 人	362	24.0	194	20.0
4 人	337	22.3	209	21.6
5 人以上	193	12.8	115	11.9
無回答	12	0.8	1	0.1
合計	1,510	100.0	968	100.0

(4) 職業

回答者の職業をみると、「会社員」が 36.6%と 1/3 強を占めて最も多く、これに次いで「主婦」が 14.2%で、以下「公務員」(10.3%)、「自営業」(8.5%)、「無職」(6.0%)などの順であった。(注.「その他」は、パート・アルバイト 70 人、団体職員 13 人など)

これを前回調査結果と比較すると、「無回答」が 8.1 ポイント増加し、このほか「会社員」(5.6 ポイント増)、「公務員」(2.1 ポイント増)なども増加、反対に、「主婦」(12.8 ポイント減)、無職(4.8 ポイント減)等は減少している。

図表 2-2-3

単位：人、%

職業	今回 (H29 年) 調査		前回 (H26 年) 調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
会社員	552	36.6	300	31.0
公務員	155	10.3	79	8.2
自営業	128	8.5	76	7.9
サービス業	68	4.5	40	4.1
農林業	11	0.7	11	1.1
主婦	214	14.2	261	27.0
学生	20	1.3	16	1.7
無職	91	6.0	105	10.8
その他	147	9.7	79	8.2
無回答	124	8.2	1	0.1
合計	1,510	100.0	968	100.0

2. 現在の生活状況

(1) 現在の暮らし向きの満足度について

「まあ満足している」が 47.8%と最も多く、これに「満足している」の 16.2%を加えると合計 64.0%となり、2/3 近くの人には「まあ満足している」レベル以上であることが判明した。

なお、「不満である」(6.6%)・「どちらかといえば不満である」(8.5%)の回答合計は 15.1%で、6~7 人に 1 人は現在の暮らしに対して何らかの不満を感じている。このほか「どちらともいえない」が 19.2%あった。

前回調査と比較すると、前は「満足」・「まあ満足」の満足派が合計 57.4%であり、今回の調査結果の方が 6.6 ポイント高くなっている。一方、「不満である」・「どちらかという不満」の不満派は前回は合計が 20.3%で、今回はこれを 5.2 ポイント下回り、総じて今回の回答者の方が前回より暮らし向きは満足しているといえる。

なお、これを年代別でみると、20 歳代、30 歳代は「満足」・「やや満足」など若い年代は満足度の比率が平均値より高く、上の年代にいくに従い「不満」・「どちらかという不満」とする回答が多い傾向がみられた。

また男女別では、男性の「満足」・「まあ満足」合計は 62.4%で、女性は同合計が 65.6%となっており、女性の方が満足度は多少高い結果であった。

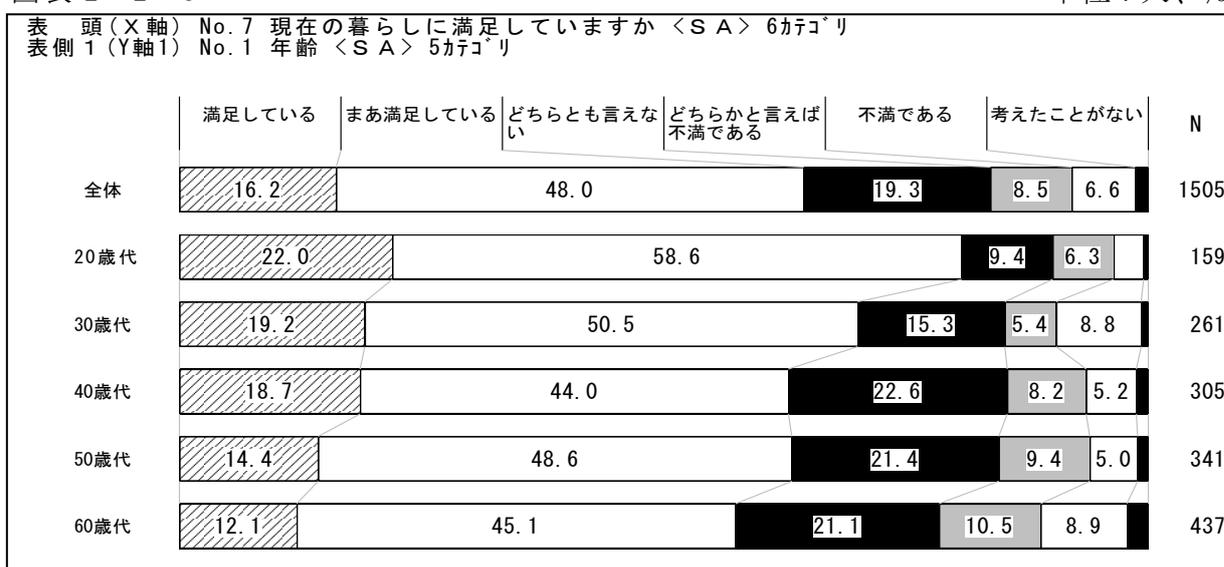
図表 2-2-4

単位：人、%

現在の暮らしの満足度	今回（H29年）調査		前回（H26年）調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
満足している	244	16.2	145	15.0
まあ満足している	722	47.8	410	42.4
どちらとも言えない	290	19.2	204	21.1
どちらかといえば不満である	128	8.5	104	10.7
不満である	100	6.6	93	9.6
考えたことがない	21	1.4	11	1.1
無回答	5	0.3	1	0.1
合計	1,510	100.0	968	100.0

図表 2-2-5

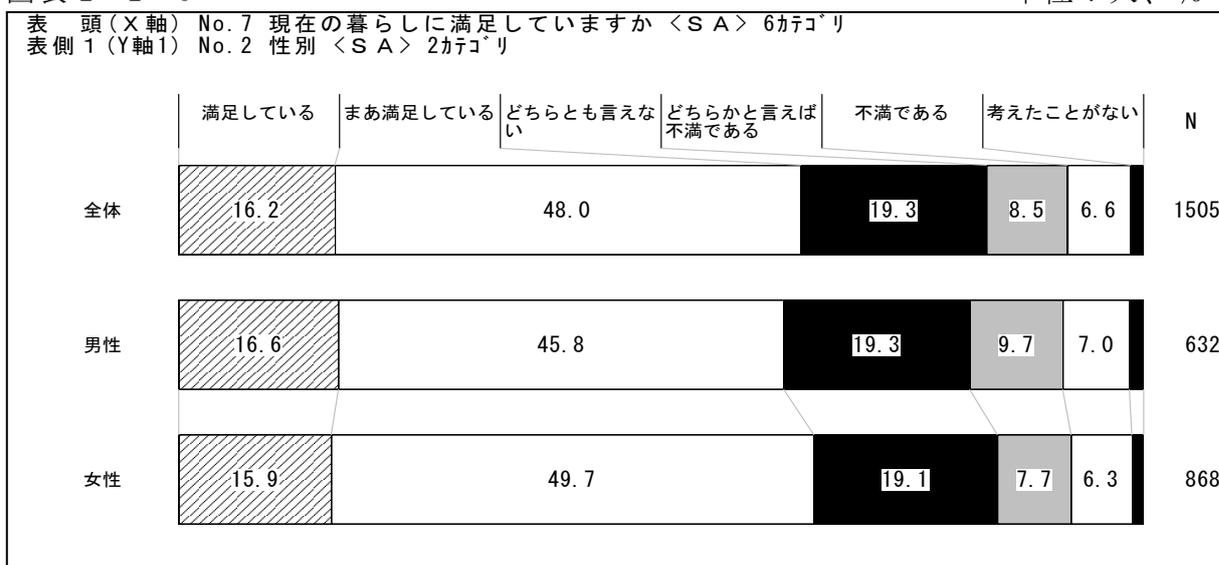
単位：人、%



注. グラフは無回答分を除いている

図表 2-2-6

単位：人、%



注. グラフは無回答分を除いている

(2) 2、3年前と比べた現在の暮らし向き

2、3年前と比較しての暮らしの状況は、「変わらない」が51.5%と過半数を占めて最も多かった。

次いで「どちらかといえば悪くなった」が18.9%で、これに「悪くなった」(9.5%)も加えた悪化派を合計すると28.4%となり、3割近くの人が3年前と比べて悪化傾向にあることが判明した。

なお、「良くなった」(7.0%)、「どちらかといえば良くなった」(12.8%)などの好転派は合計19.8%で、悪化したとする回答を下回っている。

前回調査との比較では、前回は「どちらかといえば悪くなった」(27.4%)・「悪くなった」(19.3%)の悪化派合計が46.7%で、今回は前回よりも18.3ポイント下回り、一方「良くなった」(5.1%)、「どちらかといえば良くなった」(11.9%)の好転派は前回は合計17.0%で今回は上回り、総じて今回の調査結果の方が暮らし向きは良くなっていることが判明した。

図表 2-2-7

単位：人、%

2、3年前と比較した 暮らし向き	今回（H29年）調査		前回（H26年）調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
良くなった	106	7.0	49	5.1
どちらかといえば良くなった	193	12.8	115	11.9
悪くなった	144	9.5	187	19.3
どちらかといえば悪くなった	286	18.9	265	27.4
変わらない	776	51.5	351	36.3
無回答	5	0.3	1	0.1
合計	1,510	100.0	968	100.0

良くなった理由としては、「収入の増加」や「子供への出費の低下」などをあげており、反対に悪くなった理由は「収入の減少・不安定」や、「物価の上昇、高騰」などが上位を占めている。

図表 2-2-8

単位：人

暮らし向きが良くなった理由 上位回答（含む複数回答）	回答数
収入が増えた	91
子供への出費が減った	31
子供が増えた（家族が増えた）	14
居住環境の改善	11

図表 2-2-9

単位：人

暮らし向きが悪くなった理由 上位回答（含む複数回答）	回答数
収入の減少・不安定	160
物価の上昇、価格高騰	72
教育費負担	29
年金生活になった	20

なお、年代別では、20歳代、30歳代など若い世代において「良くなった」・「どちらかといえば良くなった」などの好転派が平均値より高く、高齢世代になるに従い悪化傾向の回答が多くなっている。

図表 2-2-10

単位：人、%

表 頭(X軸) No.9 2,3年前と比べた現在の暮らし向き <SA> 5カテゴリ
表側 1(Y軸1) No.1 年齢 <SA> 5カテゴリ

	良くなった	どちらかといえば良くなった	悪くなった	どちらかといえば悪くなった	変わらない	N
全体	7.0	12.8	9.6	19.0	51.6	1505
20歳代	12.6	22.0	4.4	10.7	50.3	159
30歳代	11.1	16.8	8.4	14.9	48.8	262
40歳代	7.9	16.1	5.6	15.8	54.6	304
50歳代	6.1	11.1	10.8	18.4	53.6	343
60歳代	6.2	14.0	26.9	50.1		435

注. グラフは無回答分を除いている

(3) 現在関心を持っている事 (複数回答)

60歳代が回答者全体の30%近くを占めていることなどから、「年金」が44.0%を占めてトップとなり、同じく「健康」(41.2%)や「介護」(22.2%)なども上位となっている。

このほか、「税金(消費税等)」(22.1%)、「収入または売上」(20.5%)等の家計費との関連性の強い回答項目や、「医療」(19.3%)、「教育」(18.1%)、「物価」(17.8%)、「自然環境(温暖化等)」(14.1%)なども上位を占めている。

これを3年前に実施した前回調査と比較すると、上昇した項目としては「健康」(10.2ポイント増)、「介護」(5.2ポイント増)、「医療」(3.8ポイント増)など健康に関する項目や、「住宅、土地」(2.6ポイント増)、「収入または売上」、「雇用問題」(2.0ポイント増)など家計費等に係わる項目が増加している。

一方で、「物価」(13.0ポイント減)、「食の安全」(9.7ポイント減)、「犯罪の低年齢化」(5.5ポイント減)などは前回より大きく減少しており、当時の時代背景、クローズアップされたニュースなどの影響によるものとみられる結果が現れた。

なお、年代別でみると、50~60歳代は「年金」、「健康」、「介護」が全体の平均値より高く、20~30歳代は「収入または売上」、「雇用問題」、「税金(消費税等)」等が、また30~40歳代は「教育」などがそれぞれ平均より高い傾向がみられた。

男女別では、男性は「年金」、「収入または売上」、「税金」などの回答が平均値より高く、女性は「物価」、「介護」、「食の安全」、「健康」、「医療」などの項目について平均を上回っている

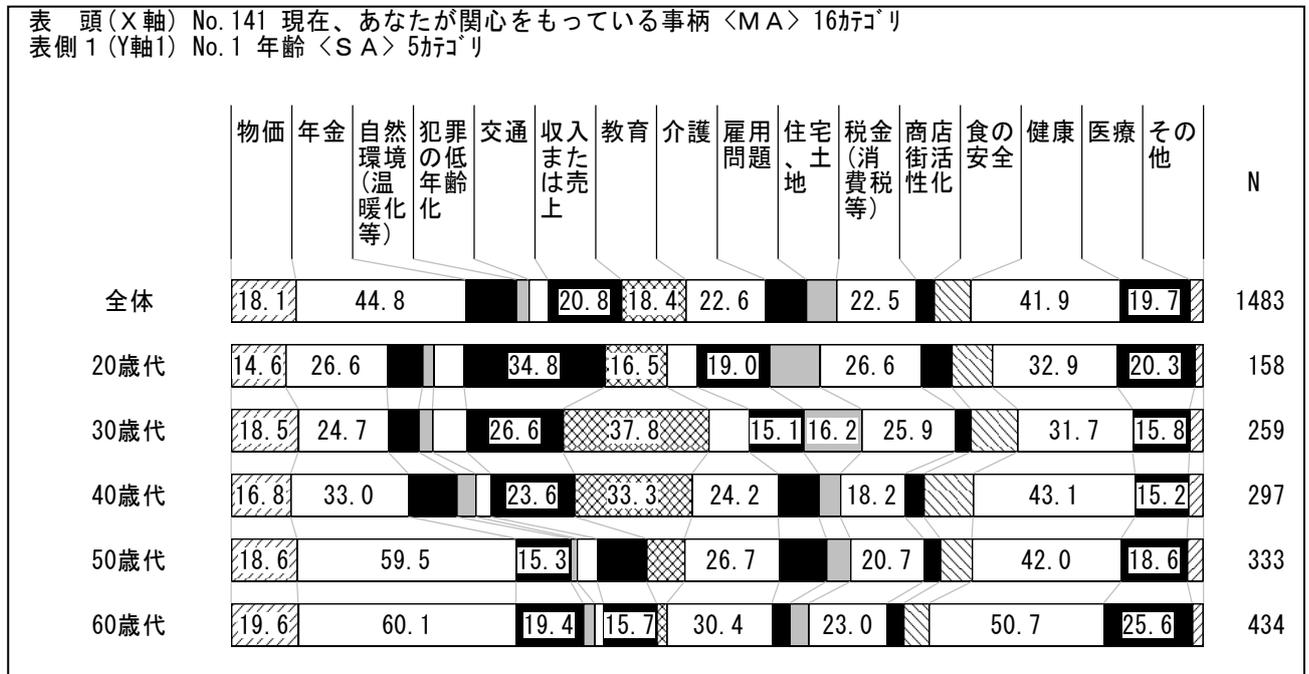
図表 2-2-11

単位：人、%

関心を持っていること (複数回答)	今回 (H29年) 調査		前回 (H26年) 調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
物価	269	17.8	294	30.3
年金	664	44.0	408	42.1
自然環境 (温暖化等)	213	14.1	169	17.5
犯罪の低年齢化	53	3.5	87	9.0
交通	83	5.5	37	3.8
収入または売上	309	20.5	179	18.5
教育	273	18.1	183	19.0
介護	335	22.2	164	17.0
雇用問題	170	11.3	90	9.3
住宅、土地	128	8.5	57	5.9
税金 (消費税等)	333	22.1	273	28.2
商店街活性化	77	5.1	58	6.0
食の安全	155	10.3	193	20.0
健康	622	41.2	300	31.0
医療	292	19.3	150	15.5
その他	58	3.8	38	3.9
無回答	27	1.8	1	0.1
合計	1,510	100.0	968	100.0

図表 2-2-12

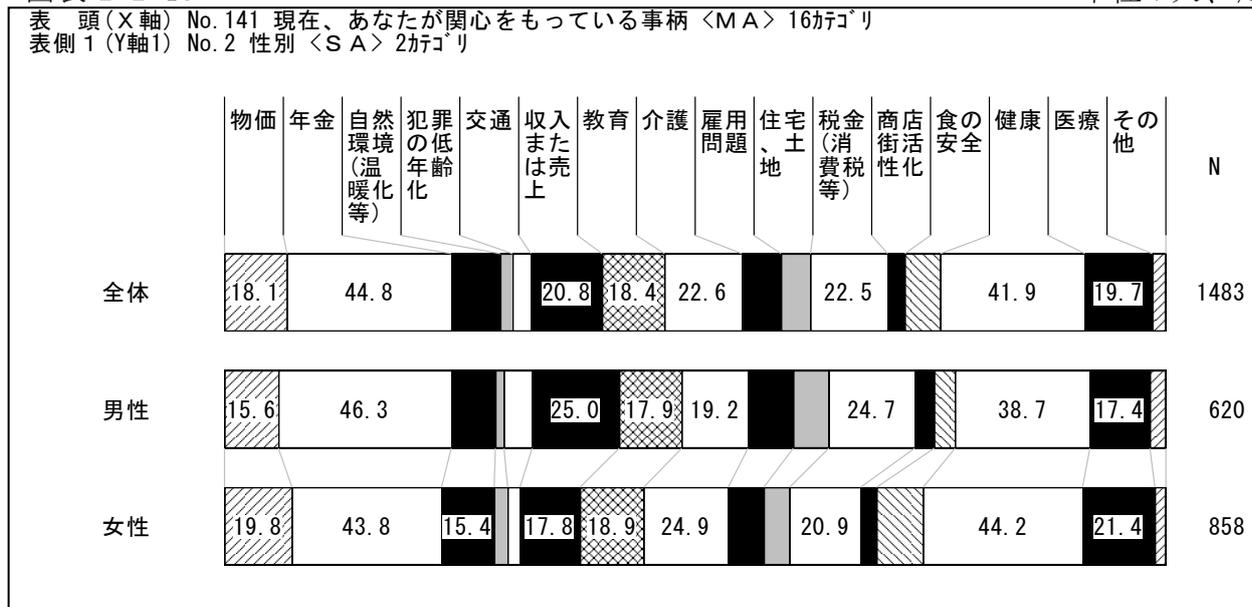
単位：人、%



注. グラフは無回答分を除いている

図表 2-2-13

単位：人、%



注. グラフは無回答を除いている

(4) 現在、興味があること(複数回答)

現在興味を持っていることは、「旅行(国内/海外)」(32.8%)が回答者全体の約1/3を占めて最も多く、以下「飲食」(29.7%)、「友人、知人との交流」(28.1%)、「読書、音楽鑑賞」(18.7%)、「子供の教育」(18.3%)、「ショッピング(通販含む)」(18.2%)、「貯金」(16.5%)、「スポーツ全般」(16.4%)の順位となっている。

なお、今回の調査においては回答項目が前回より変動しているため全体として前回調査との比較は困難であるが、概ね同様の回答項目の中で前回調査結果より上昇した項目としては、「飲食」(12.1ポイント増)をあげることができる。また反対に低下した項目は、「友人、知人との交流」(6.7ポイント減)、「旅行(国内/海外)」(6.0ポイント減)、「ガーデニング」(4.8ポイント減)、「ショッピング」(4.5ポイント減)等であった。

これを年代別で見ると、全体の平均値より高い項目として、20歳代は「貯金」、「友人・知人との交流」など、30歳代は「飲食」、「貯金」、「子供の教育」等、また40歳代は「ショッピング」、「子供の教育」などで、50歳代は「パソコン、携帯電話」、「飲食」、「旅行」等、60歳代は「旅行」、「友人、知人との交流」、「旅行」などをあげることができ、各年代の特徴が現れているといえる。

男女別では、男性は「ゲーム全般」、「パソコン、携帯」、「スポーツ」などの回答比率が平均を上回り、女性は「飲食」、「旅行」、「友人、知人との交流」、「ショッピング」、「ガーデニング」、「教育」等が高い結果となっている。

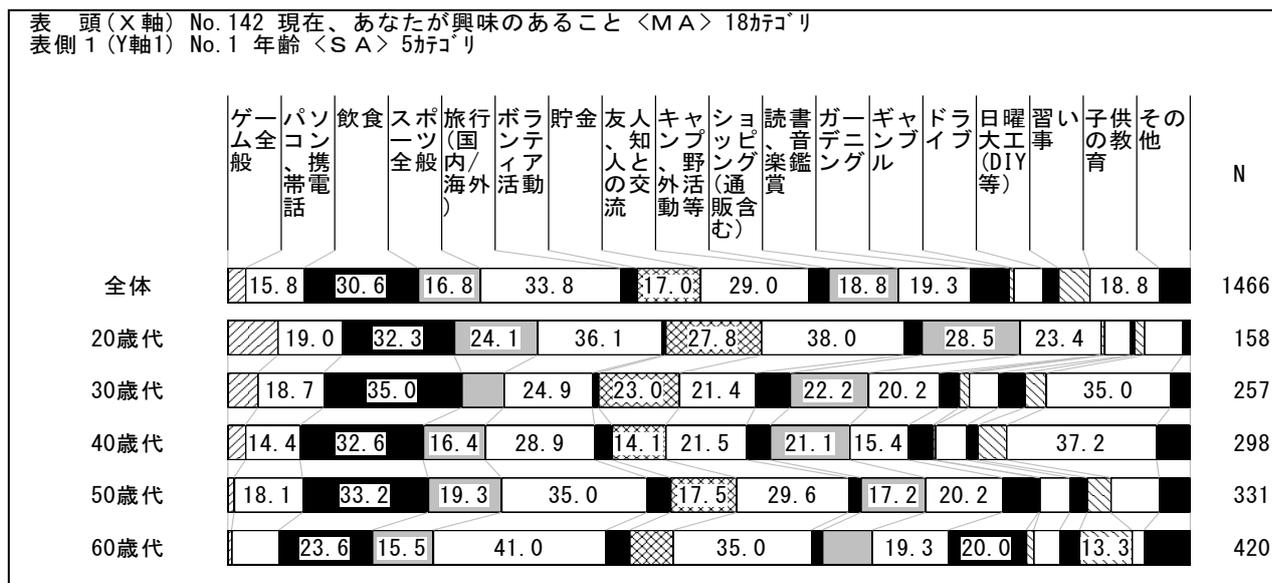
図表 2-2-14

単位：人、%

現在興味のあること (複数回答)	今回 (H29年) 調査		前回 (H26年) 調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
ゲーム全般	69	4.6	45	4.6
パソコン、携帯電話 (H26 はパソコンのみ)	231	15.3	114	11.8
飲食 (H26 は食べ歩き)	449	29.7	170	17.6
スポーツ全般	247	16.4	156	16.1
旅行 (国内/海外)	495	32.8	376	38.8
ボランティア活動	67	4.4	63	6.5
貯金	249	16.5	168	17.4
友人、知人との交流	425	28.1	337	34.8
キャンプ、野外活動等	77	5.1	43	4.4
ショッピング (通販含む)	275	18.2	220	22.7
(H26のみ囲碁・将棋、H29は回答項目無し)	-	-	9	0.9
読書、音楽鑑賞 (H26は無し)	283	18.7	-	-
ガーデニング	152	10.1	144	14.9
ギャンブル	23	1.5	23	2.4
ドライブ	113	7.5	78	8.1
日曜大工 (DIY等) (H26は「日曜大工」のみ)	68	4.5	27	2.8
習い事	121	8.0	105	10.8
子供の教育	276	18.3	210	21.7
その他	122	8.1	89	9.2
無回答	44	2.9	1	0.1
合計	1,510	100.0	968	100.0

図表 2-2-15

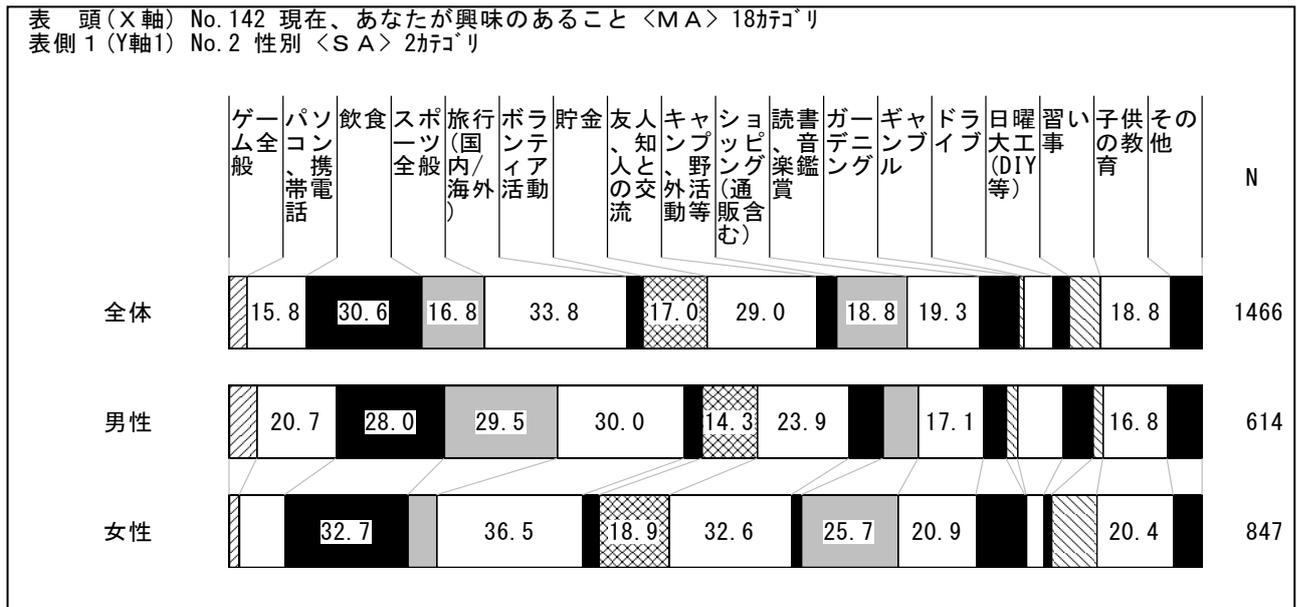
単位：人、%



注. グラフは無回答分を除いている

図表 2-2-16

単位：人、%



注. グラフは無回答分を除いている

(5) 現在欲しいと思っているもの(複数回答)

現在欲しい商品としては、「衣料品」(28.5%)、「自動車」(27.0%)、「電化製品」(24.6%)が上位3位で、これらの商品については概ね約4人に1人以上が購入意欲を示している。

このほかでは、「家(または別荘)」(18.6%)、「台所用家電」(12.1%)、「バッグ、靴」(11.6%)なども10%以上の回答率であった。

なお、前回調査との比較では、前は「自動車(国産+外国車)」が32.0%であったが今回は前回より5.0ポイント低下し、「衣料品」も同じく1.9ポイント減となっている。

また、前回調査より総じて減少している傾向が強い中で、「スポーツ用品」、「携帯電話」、「家(または別荘)」などは若干ながら増加している。

年代別では、「衣料品」や「バッグ、靴」などは若い年代の回答が多く、「台所用家電」、「自動車」、「家(または別荘)」は40歳代、「電化製品」、「バッグ、靴」は50歳代、60歳代は「台所用家電」、「電化製品」などが全体の平均を上回っており、男女別では、男性は「自動車」、「電化製品」、「家(または別荘)」など、女性は「衣料品」、「台所用家電」、「バッグ、靴」等で平均より高い回答比率を示している。

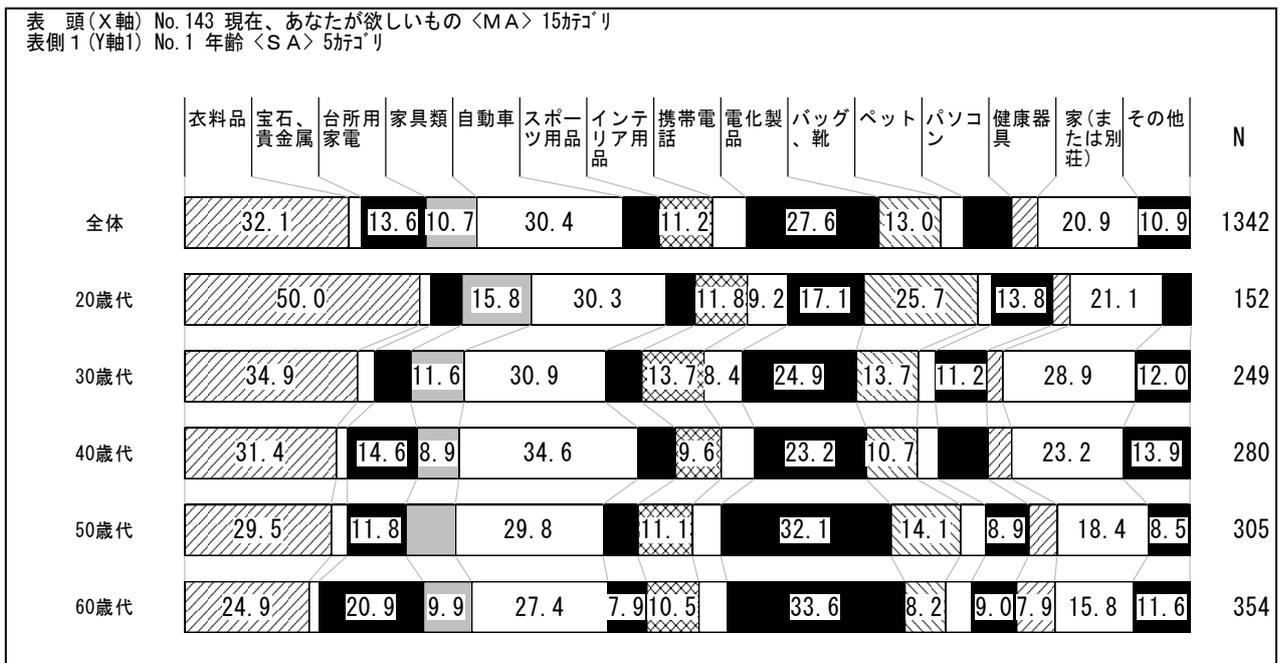
図表 2-2-17

単位：人、%

現在欲しいもの (複数回答)	今回 (H29年) 調査		前回 (H26年) 調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
衣料品	431	28.5	294	30.4
宝石、貴金属類	38	2.5	19	2.0
台所用家電	183	12.1	119	12.3
家具類	144	9.5	113	11.7
自動車 (H26は自動車 (上段:国産車・下段:外国車))	408	27.0	258	26.7
スポーツ用品	102	6.8	51	5.3
インテリア用品	150	9.9	102	10.5
携帯電話	94	6.2	50	5.2
電化製品	371	24.6	238	24.6
バッグ、靴	175	11.6	119	12.3
ペット	63	4.2	36	3.7
パソコン	137	9.1	93	9.6
健康器具	75	5.0	43	4.4
家 (または別荘)	281	18.6	169	17.5
その他	146	9.7	146	15.1
無回答	168	11.1	1	0.1
合計	1,510	100.0	968	100.0

図表 2-2-18

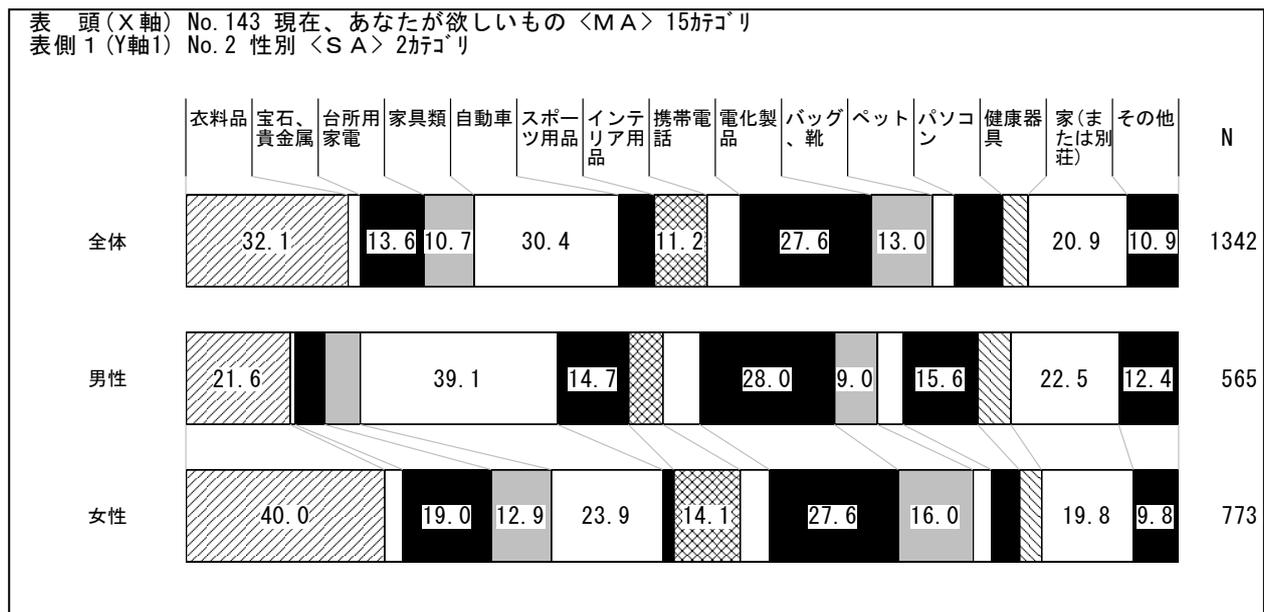
単位：人、%



注. グラフは無回答分を除いている

図表 2-2-19

単位：人、%



注. グラフは無回答分を除いている

(6) 欲しいものを買うために貯金をしているか

前記質問の「欲しいもの」を買うために貯金をしている割合は、「特にしていない」が 55.9%と半分以上を占め、「している」回答者は 33.4%と 1/3 であった。

なお、前回調査との比較においては、「している」は 5.3 ポイント増加したが、「特にしていない」は前回の 71.6%から 15.7 ポイントと大きく減少した。

また年代別では、比較的若い層において貯金を「している」との回答が多く、高年代になるほど「特にしていない」割合が多くなっており、男女別では若干ながら女性の方が貯金をしている比率が高くなっている。

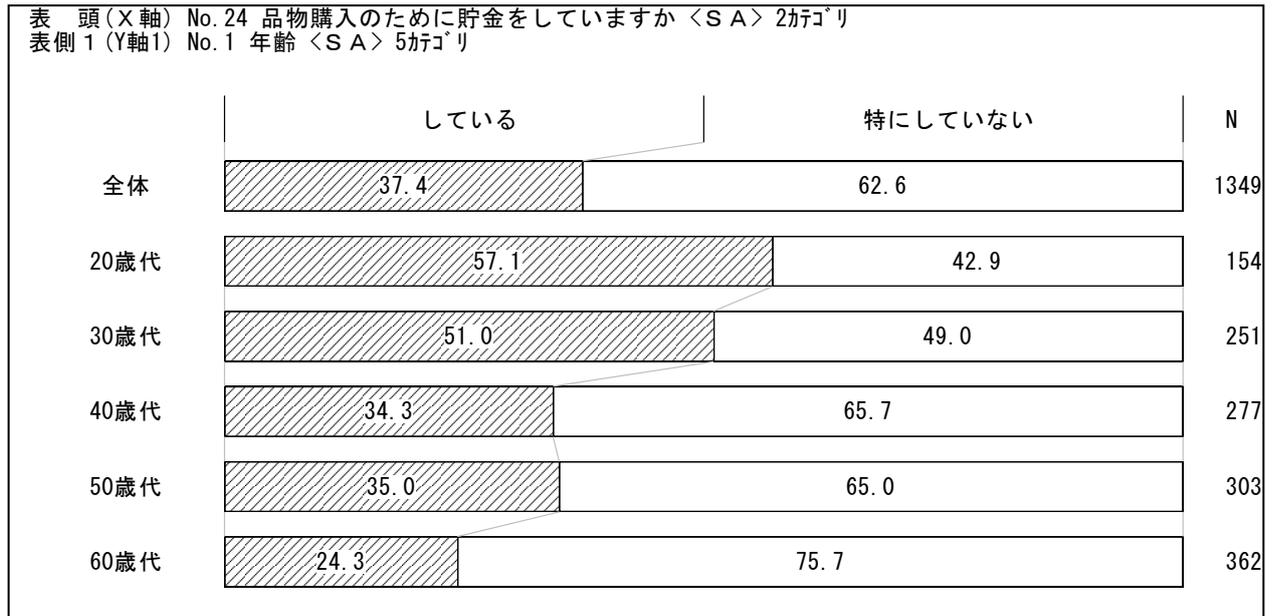
図表 2-2-20

単位：人、%

買うための貯金は	今回 (H29 年) 調査		前回 (H26 年) 調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
している	505	33.4	272	28.1
特にしていない	844	55.9	693	71.6
無回答	161	10.7	3	0.3
合計	1,510	100.0	968	100.0

図表 2-2-21

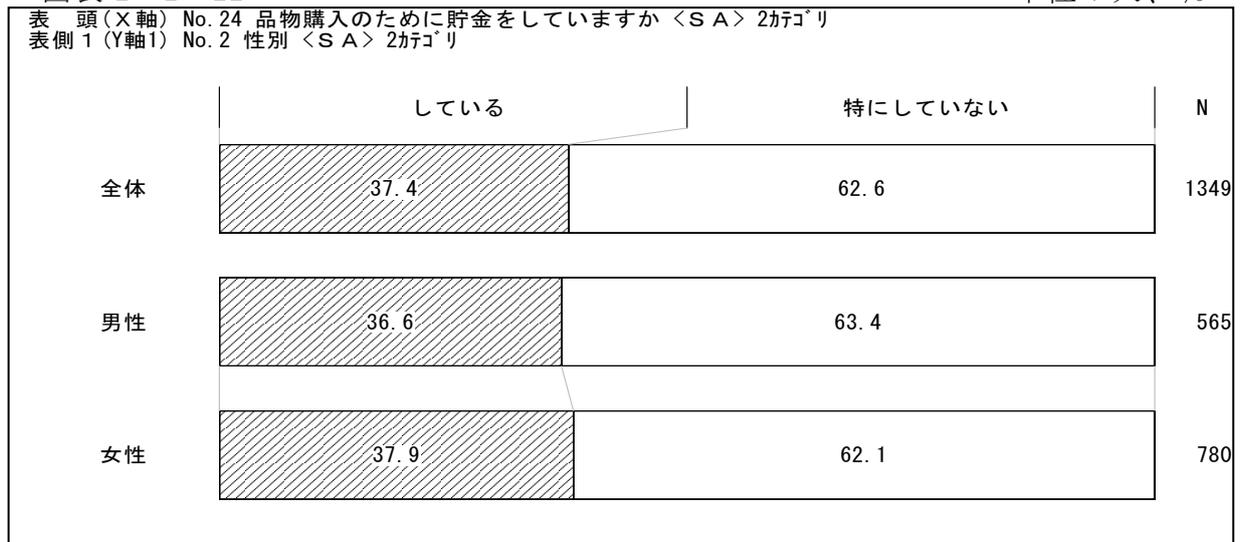
単位：人、%



注. グラフは無回答分を除いている

図表 2-2-22

単位：人、%



注. グラフは無回答分を除いている

(7) 余暇の過ごし方について (複数回答)

余暇の過ごし方については、「家事 (掃除等)」が 30.1%と 1/3 弱を占めて最も多く、以下「ショッピング」(25.5%)、「一家団らん」(22.4%)、「友人との交遊」(22.1%)、「ごろ寝」(21.5%)が 20%台となっている。

このほかでは、「読書、音楽鑑賞」(16.8%)、「スポーツ」(15.6%)、「旅行」(15.1%)などが上位となっている。

また、前回調査との回答比率増減では、「飲食」(6.0ポイント増)や「日曜大工 (DIY等)」(1.9ポイント増)などは増加したが、「ショッピング」(4.7ポイント減)、「一家団らん」(4.5ポイント減)、「読書、音楽鑑賞」(4.3ポイント減)、「ごろ寝」(3.9ポイント減)等は減少している。

図表 2-2-23

単位：人、%

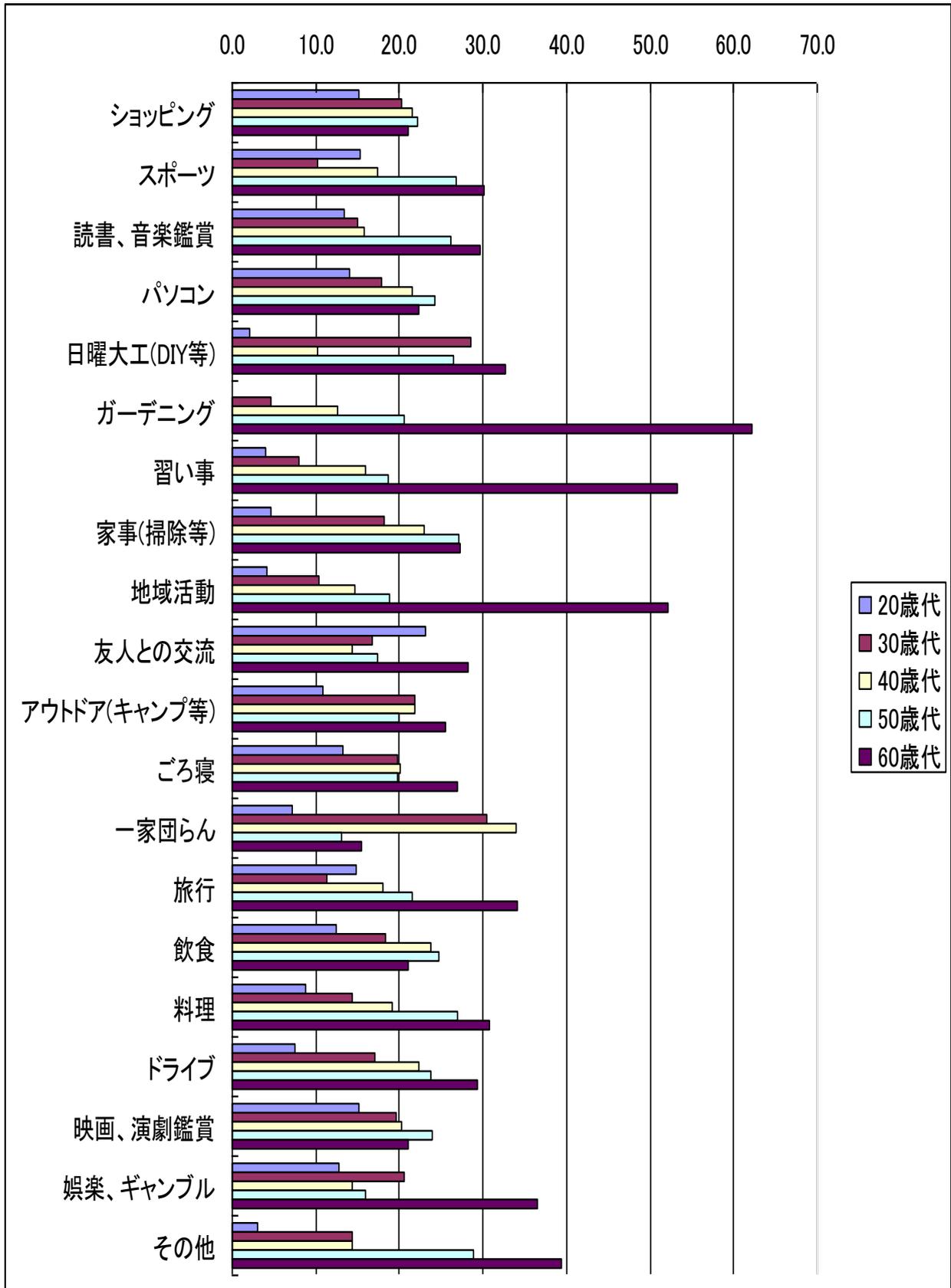
余暇の過ごし方 (複数回答)	今回 (H29 年) 調査		前回 (H26 年) 調査	
	回答数	構成比	回答数	構成比
ショッピング	385	25.5	292	30.2
スポーツ	235	15.6	153	15.8
読書、音楽鑑賞	253	16.8	204	21.1
パソコン	107	7.1	87	9.0
日曜大工 (DIY 等) (H26 は「日曜大工」のみ)	49	3.2	13	1.3
ガーデニング	127	8.4	111	11.5
習い事	75	5.0	71	7.3
(H26 回答項目「囲碁、将 棋など」)	-	-	5	0.5
家事 (掃除等) (H26 は本 項目無し)	455	30.1	-	-
地域活動	49	3.2	30	3.1
友人との交遊	333	22.1	240	24.8
アウトドア (キャンプ等)	55	3.6	35	3.6
ごろ寝	324	21.5	246	25.4
一家団らん	338	22.4	260	26.9
旅行	228	15.1	154	15.9
飲食 (H26 は「食べ歩き」)	187	12.4	62	6.4
料理	105	7.0	69	7.1
ドライブ	147	9.7	84	8.7
映画、演劇鑑賞	138	9.1	96	9.9
娯楽、ギャンブル	63	4.2	55	5.7
その他	132	8.7	100	10.3
無回答	32	2.1	2	0.2
合 計	1,510	100.0	968	100.0

年代別に見た回答比率の上位項目としては、20 歳代では「友人との交流」、「スポーツ」、「映画、演劇鑑賞」で、30 歳代は「一家団らん」、「日曜大工 (DIY 等)」、「アウトドア (キャンプ等)」、40 歳代は「一家団らん」、「飲食」、「家事 (掃除等)」などであった。また 50 歳代は「家事 (掃除等)」、「料理」、「スポーツ」などが高く、60 歳代は「ガーデニング」、「習い事」、「地域活動」等の回答項目が上位であった。

男女別の上位回答項目としては、男性は「日曜大工 (DIY 等)」、「娯楽、ギャンブル」、「スポーツ」、「パソコン」などで、女性は「習い事」、「家事 (掃除等)」、「料理」、「ショッピング」等の回答比率が高かった。

図表 2-2-24

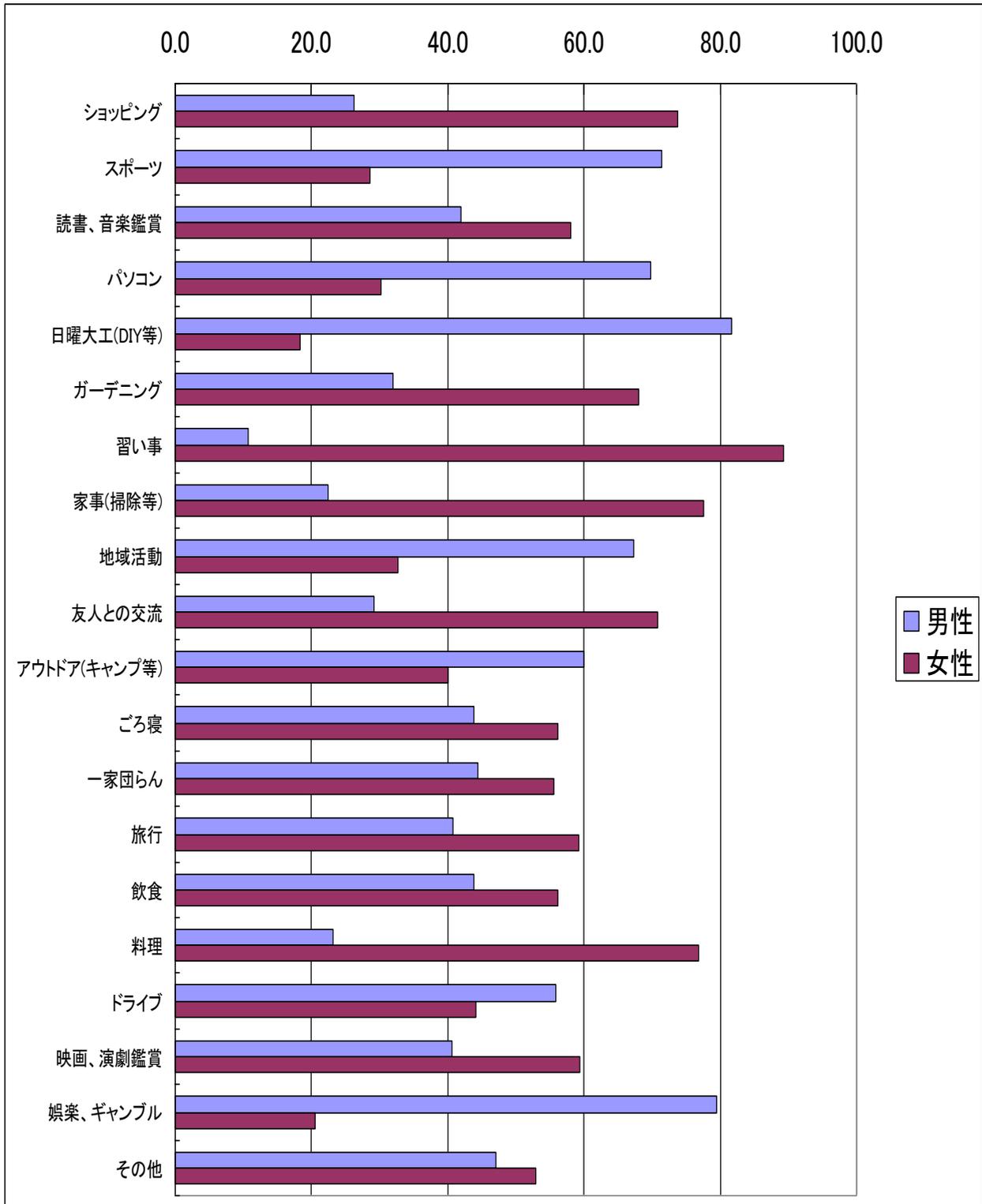
単位：%



注. グラフは無回答分を除いている

図表 2-2-25

単位：%



注. グラフは無回答分を除いている